

『福岡と世界をつなぐ架け橋に』

朗読者 フラッシュユ嶋田

5

食事と会話を楽しむ屋台は、福岡ならではの食文化です。2017年4月、初めての外国人オーナーによる屋台『レミさんち』がオープン。フランス人のレミさんが本場で学んだ料理をリーズナブルに味わえるとあって、地元の常連客や国内外からの観光客が連日足を運ぶ、人気店に成長しました。

10

レミさんが旅行で初めて福岡を訪れ、屋台に入ったときのことです。店のスタッフだけでなく、他のお客さんまでもが気さくに話しかけてくれ、ともに食事を楽しもうとしてくれました。異国の地でひとり旅という心細さを一瞬で忘れ、屋台が大好きになりました。それがきっかけとなり屋台の街・福岡に興味を抱くようになったのです。

15

福岡に移住して念願の屋台オーナーとなったレミさんは、これまでの経験から、屋台を楽しい空間にすることも大切な要素だと考えます。テキパキと料理をしながらも陽気に話しかけ、積極的に場を盛り上げます。また、レミさんの屋台では、あえてワーキングホリデーで来日した外国人を雇っています。日本での滞在期間が比較的短い、さまざまな国・地域の若者たちばかりです。なぜなら、お客さんとの会話が自然に生まれる屋台こそ、日本の文化や習慣を肌で

20

感じられる場だと考えているからです。その結果、日本人にとっても、外国人にとっても、異文化を知り、他国の人と気軽に交流できる空間になりました。わずか10席余りの小さな屋台が、「福岡と世界をつなぐ架け橋」となっているのです。

一方で、日本で働く外国人の中には、差別や偏見を感じたことのある人たちもいます。外国人という理由だけで希望する部屋が借りられず、家がないことで仕事も探せなくて困っている人もいます。また、ある外国人は、アルバイト先で「注文が一度で理解できず、聞き返したら舌打ちされた経験があります。表現を変えてくれたらわかるのに」と語っていました。今、福岡では多くの外国人が働いています。外国人が気持ちよく活躍できる社会を実現するために、異文化を理解し、レミさんのように温かい心を持って「福岡と世界の架け橋」となる存在になりたいですね。